

2019.4.13-14

OKAYAMA

Round

01

qualify

GTデビュー戦の阪口晴南が コースレコードで予選2位を奪取



AUTOBACS SUPER GT 2019 SERIESの第1戦が、岡山トヨペットの地元・岡山国際サーキットで開幕しました。K-tunes Racingは2018シーズンに引き続き、LEXUS RC F GT3でGT300クラスを戦います。ドライバーは「ミスターGT」とも呼ばれる最多勝記録のタイトルホルダーであるベテラン新田守男選手と、SUPER GT初参戦となる若手19歳の阪口晴南選手という、絶妙なコンビネーションです。

4月13日(土)には予選が行われました。GT300クラスのエントリーは29台でしたが、コース上での混雑を避けるため、Q1は2組に分けて実施されました。K-tunes Racingの96号車は、B組となりました。

3月に行われた公式テストでは好タイムをマークし、トップタイムを出したセクションもありました。その好調が、予選で発揮されることに期待が集まりました。

Q1 A組では、#52埼玉トヨペットGB マークX MCの吉田広樹選手がコースレコードに迫る1分25秒393でトップタイム。やはりタイトなコーナーが連なる岡山国際サーキットは





軽量なJAF-GTマシンが優位なのか？ しかし2番手から5番手まではFIA-GT3マシンが並びました。

そしてQ1 B組の予選、アタックを担った新田守男選手は、慎重に時間をかけてタイヤに熱を入れます。そして5周目、ついにタイムアタックに入りますが、タイムは1分26秒056とQ2進出ギリギリの8番手。しかし、そのタイムを超えるマシンはなく、無事Q2へと駒を進めることができました。

そのQ2でSUPER GTデビューすることになった阪口晴南選手ですが、わずかなインターバルでマシンのセッティングを変更し、タイムアップを狙います。そして出たタイムは1分24秒905というコースレコード。#55ARTA NSX GT3にわずか0秒016届かず、惜しくもポールポジションは逃しましたが予選2位を獲得しました。

2年目のK-tunes Racingは、地元岡山で優勝を狙える位置から決勝レースをスタートします。

2019 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE

岡山国際サーキット

2019年4月13日 天候：晴れ 路面：Dry

qualify

Pos	No	Machine	Driver	Q1	Q2	Tire
1	55	ARTA NSX GT3 Honda NSX GT3 / JNC1	高木 真一 福住 仁嶺	1'25.447	1'24.889 R	BS
2	96	K-tunes RC F GT3 LEXUS RC F GT3 / 2UR-GSE	新田 守男 阪口 晴南	1'26.056	1'24.905 R	BS
3	52	埼玉トヨペットGB マークX MC TOYOTA MARK X MC / GTA V8	勝阪 薫一 吉田 広樹	1'25.393	1'25.091	BS
4	65	LEON PYRAMID AMG Mercedes AMG GT3 / M159	黒澤 治樹 蒲生 尚弥	1'26.280	1'25.186	BS

監督・選手コメント



Team Director
影山正彦

今回悩んだのはタイヤ選びです。Q1はマッチングが苦しくギリギリの突破でしたが、それを修正したQ2で阪口選手が見事なタイムを出してくれました。



Driver
阪口晴南

Q1で悪いところが出て、それを修正できたのでいいタイムが出せました。正直ポール争いができるとは思っていませんでしたので、とても嬉しいです。

